

## 質問

なぜ文学部を選んだのですか／研究の際に、文学部で良かったと思うことはありますか？

## 質問への回答

進路選択の頃（18歳頃）、就きたい仕事は漠然としていましたが、本や書店・図書館が大好きなのは確かだったからです。

個人的な経験に過ぎませんが、その頃は、「自分にできる／すべき仕事は、今（18歳時点）、私が知っていることの中にはないのではないか」という予感がありました。加えて、私をよく知っていて利害関係のない大人の人（私の場合は、習い事の先生）から、「あなたには、すぐに役に立つ勉強は似合わない」と言われたことも、最終的に文学部を選んだ理由の一つです。

確かに、文学部で学ぶ内容は、社会に出てそのまま役に立つことはごく僅かなのは事実です。でも、どのような職業に就くにせよ、人間と言葉が関わらない仕事はまずありません。文学部で学ぶのは、言葉だけではなく、人間の感情・思考（全て言葉で出ています）のパターンやバリエーションです。

迷っていたら、とりあえず文学部にしておく！というのは、消極的なようで将来の幅を拡げる選択だと思います。

## 質問

日本文学・日本語学を研究する中で、特にここが面白かったり（原文ママ）、刺激を感じることはこういったところですか／古典文学の一番面白いと思う面は何ですか？

## 質問への回答

古典文学と日本語史に関する答えになりますが、何百年も前の人と同じ言葉を理解できている、同じ本（物体としての）を読んでいる、という感覚でしょうか。

例えば、万葉集や古今和歌集には、恋のほぼ全ての段階やパターンが既に書かれていて、悩むことが馬鹿らしくなります。時には、徳川家康が読んでいた本（実物）を私が読んでいる！ということもあります。言葉や文学の前には、遙か昔の人も偉人も関係がありません。

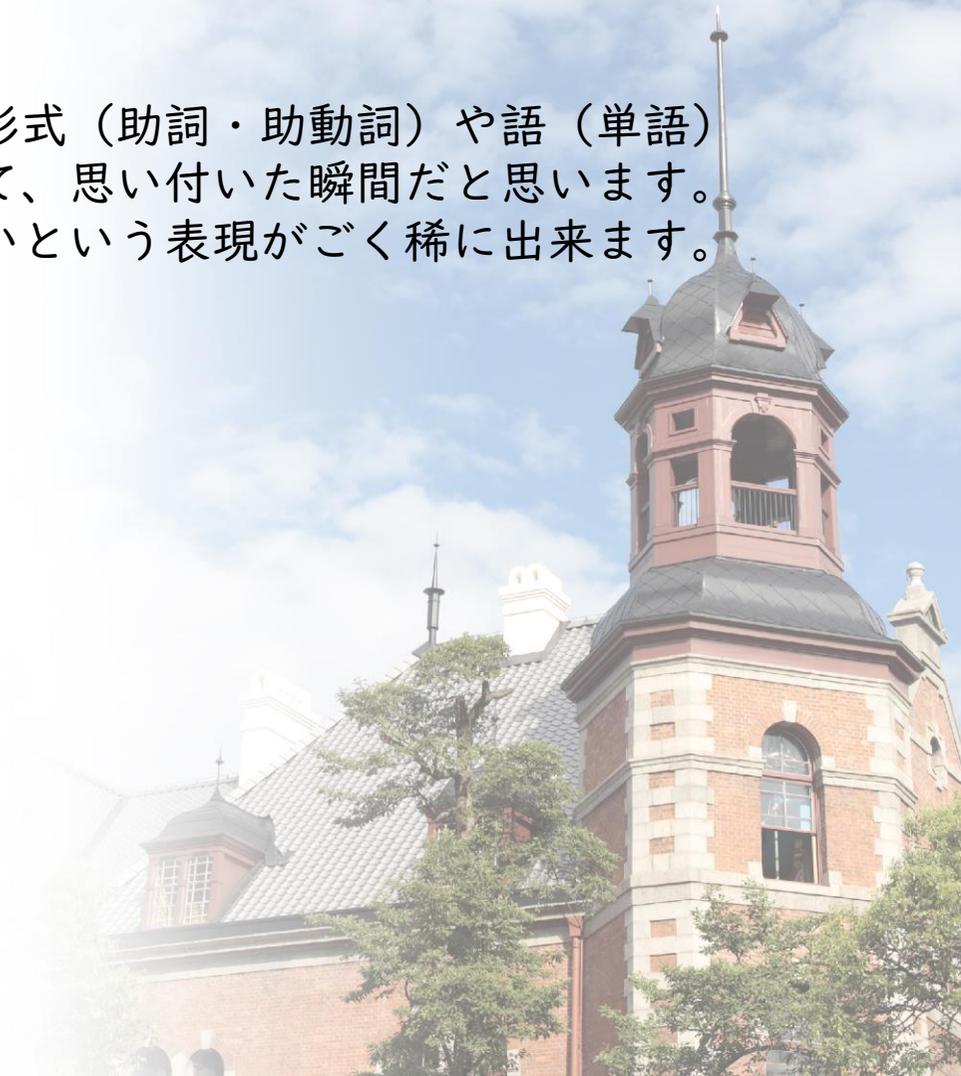
私の研究室にある本の9割以上は、私が生まれる前に書かれたものです。言葉や文学だけでなく、紙で出来た本でさえ、一人の人間の一生より長くこの世に留まることを考えると、自分の小ささに安心できますし、新たなものを生み出せなくとも、その継承に携わっているだけで価値のあることに思えます。刺激というより、安心感かもしれません。

## 質問

日本語学を研究してきた中で、一番やりがいを感じた時はいつですか？

## 質問への回答

一番は難しいです。やりがいを感じるのは、文法形式（助詞・助動詞）や語（単語）について、働きや意味を説明する言葉を考えていて、思い付いた瞬間だと思います。ジグソーパズルが嵌ったみたいに、それ以外はないという表現がごく稀に出来ます。



## 質問

文学部はどんな人が集っていますか？

## 質問への回答

私が知っているのは国文学科だけですが、文学や日本語学など専門分野の探求に熱心に取り組む人や、資格・就職のための勉強に励む人、部活動・サークル活動に力を入れる人、色々な人がいます。

同級生やゼミの仲間が、学業への取り組み方や大学生活の送り方、目指す進路が全然違っていても、お互いを尊重し合って、絶妙な距離感で良好な関係を保つところは、国文学科に限らず、同志社の特徴かと思います。

## 質問

友人は、自分の気持ちや考えを伝えてくれる人です。私は自分の頭の中を言葉にすることが苦手で、自分の言動を説明しなくてはと思って苦しくなっています。大人になってしまう悲壮感を感じています。

## 質問への回答

古典文学、現代文学を問わず、色々な文学を読んでください。あなたの気持ちや考えを表す言葉が見つかるはずですが、個人的な感覚ですが、年齢を重ねると子供の時や若い時の自分がなくなってしまうわけではなく、場面に合わせて、〇〇歳位の自分が出せるようになって、色んなことが若い時より楽になります。高校生でいらっしゃる今も、家族と話すときと友人と話すとき、学校や塾の先生と話すときでは、自然と違う言葉を使っていますよね。それと同じように、自分を切り替えられる感じになります。楽しみにしてください。